

社団法人倫理研究所 平成24年度年次報告

2011~2012

ANNUAL REPORT

創始者生誕 120 年にあたる平成 24 年度は、1 年後に迫った一般社団法人への移行に向けての諸準備を進めつつ、「地球倫理の推進」「日本創生」の目標理念の下に、家庭倫理および企業倫理の普及を中心に公益活動を力強く展開しました。

生涯局では「感動が心の扉を開く」をテーマに全国 195 カ所で家庭倫理講演会を、また全国 7 カ所で「未来を創る」をメインテーマに青年弁論大会を開催。未普及県・市・区での拠点開設や青年層を中心とした会員数の増加などにより、会員数は 19 万 8,598 名に達しました。文化活動は「第 7 回しきなみ子供短歌コンクール」の応募者が 6 万 5,000 名を超える中、東日本大震災被災三県からの応募者が約 1,000 名もあり、鎮魂と復興への願いを込めて表彰式を開催。また各地域や学校での書道・短歌指導も積極的に行ない、日本の伝統と文化の継承に資する公益性の高い文化活動を展開しました。

法人局では 10 万社達成に向け、昨年に続き活力あふれる実践・普及活動を推進し、倫理経営講演会は全国 676 カ所で開催。年度末までに倫理法人会数は 714 カ所、会員企業数は 6 万 4,858 社に達し、倫理経営ライセンスの認定企業は新たに 13 社増えて合計 166 社となりました。また経営者倫理セミナーの受講者が 1,000 名を超え過去最高を記録しました。

研究部門では純粋倫理の体系化と倫理文化学の構築を中心に研究を推進し、創始者生誕 120 年を記念した「公開研究発表会」では「丸山敏雄とこれからの日本」をテーマに研究成果を発表しました。また、道德教育および家庭教育を推進する外部の研究者との交流も深め、より多面的・専門的に研究の深化を図りました。

教育部門では富士教育センターに於いて鮮烈な感動と灼熱の希望を与える各種セミナーを実施。「いのち輝く実践者」を数多く養成しまし

た。また富士教育センターのオープン 45 周年とグランドデザインの完成を記念するセレモニーを挙行了しました。

出版部門では震災を通して日本を見つめた『未来をひらく』、純粋倫理の実践のヒントを綴った『信じる力』『大丈夫』『ブラッシュアップ仕事術』のほか、倫理文化研究叢書として『丸山敏雄と日本』を発刊。また創始者生誕 120 年記念ブックフェア「原典を読もう。」を開催し、丸山敏雄の著書をより広く紹介し好評を博しました。

広報活動では「第 15 回地球倫理推進賞」の国内および国際活動部門を選出して贈呈式を挙行。「第 31 回地球倫理フォーラム」では心の教育の大切さを提言しました。また全面リニューアルを施したホームページにより、倫理運動をより分かりやすく対外的に発信しました。

国際活動では沙漠緑化事業に 3 隊を派遣、植林数は総計約 31 万 7,000 本に達しました。51 次隊での「第 2 回日中青年討論会」では地球環境をテーマに活発な討論を行ない、日中青年の相互理解をより深めました。アジア諸国の留学生 13 名、中国内蒙古大学学生 79 名に「丸山奨学金」を支給。ブラジル、アメリカ、台湾での普及にも力を入れ、台湾では中華民国倫理研究学会創立 25 周年に慶祝団を派遣し記念大会を開催しました。

そのほか、東日本大震災教育支援基金（通称“りんりん基金”）の運用として、被災地で活動するボランティア団体への支援を通じて子供や若者の教育支援を行ないました。また「創始者生誕 120 年記念式典」を、全国会員代表約 420 名の参加を得て福岡県北九州市で開催しました。

本年次報告では、平成 24 年度における各部門の活動や実績を、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。

社団法人倫理研究所 平成 24 年度年次報告

（自 平成 23 年 9 月 1 日）
（至 平成 24 年 8 月 31 日）

ANNUAL REPORT

平成 24 年度 活動トピックス 2

創始者生誕 120 年記念式典／公開研究発表会／生誕 120 年記念ブックフェア／創立者展示室オープン／富士教育センターオープン 45 周年・グランドデザイン完成／東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）／第 15 回地球倫理推進賞／第 31 回地球倫理フォーラム／「地球倫理の森」創成／第 7 回しきなみ子供短歌コンクール／社会教育功労者表彰／国際倫理教育支援

「家庭倫理の会」活動の展開 8

「倫理法人会」活動の展開 12

文化活動の推進 16

国際交流の推進 17

教育・研修 18

出版活動 19

研究の充実 20

倫理研究所の事業概要 22

平成 24 年度 活動トピックス

倫理研究所の創立者・丸山敏雄の生誕 120 年、富士教育センターオープン 45 年の節目にあたる平成 24 年度は、関連するさまざまな事業を行ないました。また、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体として、さまざまな生涯学習活動を展開。「第 7 回しきなみ子供短歌コンクール」「第 15 回地球倫理推進賞」などを開催するとともに、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災への教育支援活動を行ないました。

創始者生誕 120 年記念式典

平成 24 年 5 月 12 日～13 日、「創始者生誕 120 年記念式典」を福岡県北九州市の八幡ロイヤルホテルで開催。全国会員代表約 420 名が参加しました。

初日は「全国会員代表者大会」として中西浩普及部長の挨拶後、会員代表による倫理実践・普及の体験発表が行なわれました。続いて丸山敏秋理事長が「よみがえった日本の原風景」と題して講義。創始者が信仰心の篤い両親のもとで厳格な教育を受けた幼少期の体験などについて述べました。

翌 13 日の早朝 5 時より記念式典が行なわれ、所旗入場、会員 2 名による感謝報告に続いて、丸山理事長が式辞。生誕 120 年記念事業として着手している映像制作に触れ、「創始者の中でどのようにして倫理が生まれはぐくまれていったのかを探求していきます」と報告。全 4 章からなる映像の第 1 章（ダイジェスト版）を放映しました。



【左】長谷川三千子名誉教授
【下】倫理研究所研究員によるパネルトーク



公開研究発表会

創始者生誕 120 年を記念する行事の一環として、「丸山敏雄とこれからの日本」をメインテーマに据えた「公開研究発表会」を平成 24 年 8 月 4 日、東京・虎ノ門のニッショーホールで開催しました（来場者 544 名）。

長谷川三千子埼玉大学名誉教授による記念講演に続いて、「いま、なぜ、丸山敏雄か」と題してパネルトークを実施。丸山敏秋理事長、野中寛治理事、高橋徹、寛ボルテール、松本亜紀の各専門研究員が、それぞれの研究分野から純粋倫理の現代的意義を発表し、活発に意見交換を行ないました。

生誕 120 年記念ブックフェア

平成 24 年 1 月から 8 月にかけて、「原典を読もう。」と題して、丸山敏雄生誕 120 年記念ブックフェアを展開しました。創始者の遺した文章を通じて倫理運動の原点に立ち返ることを勧めるとともに、新しい読者へのアピールも視野に入れ、『歓喜の人生』『清き耳』『無痛安産の書』など、著作の中から 17 冊を厳選。購読キャンペーンとして、書籍購入者へのさまざまなプレゼントを用意したほか、「読後実践手記」を募集しました。



創始者展示室オープン

平成 24 年 8 月 1 日、「創始者展示室」が、倫理文化センター（東京都千代田区）隣接の神田アメレックスビル 5 階にオープンしました。遺品・遺作の展示コーナー、パネル・写真展示のほか、検索用タッチパネルも用意。企画展示コーナーでは、実際に着用したスーツや帽子も展示し、ゆかりの品を辿りながら、来場者それぞれに対話を深めてもらうための趣向を凝らしました。



創始者の足跡を多角的に展示



エントランス附近からみた室内



象徴庭園のシンボルツリーから富士山を望む



象徴庭園の入口でテープカット



上空から見た象徴庭園

富士教育センターオープン 45 周年 グランドデザイン完成

平成 23 年 9 月 23 日、富士教育センターオープン 45 周年と、グランドデザイン（建物と庭園全体の整備事業）完成を記念するセレモニーが開催されました。

平成 15 年に着工したグランドデザインのコンセプトは「過去と未来、天地と人を結ぶ」。敷地には「過去」「現在」「未来」の各ゾーンが設けられ、最後に完成した「象徴庭園」は「未来」のゾーンに位置します。約 9 万 4,500 平方メートルの広大な敷地に造成された庭園には、「清坐場」「朝光の滝」「象徴の木」などが配置され、セミナーでの実習にも大いに活用されます。

式典には約 130 名が出席。丸山理事長は挨拶で「象徴庭園」について述べると共に、「今日の節目を期して、さらに倫理に即して自己錬磨をはかり、全国の会員諸氏に感動と希望を与えられるセミナー、諸事業を展開して『日本創生』に寄与するという大目標に向かって前進します」と力強く語りました。また、トータルデザイン・設計・施工を担当した内藤廣氏（内藤廣建築設計事務所代表取締役）は「建物を含む敷地全体が『むすび』というキーワードで出来ており、ここに集う多くの方が強く結び合わされることを願ってやみません」と述べました。

東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の復興支援として、倫理研究所は、教育支援基金（通称：りんりん基金）を開設しました。被災した児童や生徒の勉学を援助し、教育環境を整えることを目的に一口 1 万円で寄付を募るとともに、倫理研究所からは 3 億円を拠出して基金の充実をはかりました。平成 24 年 8 月 31 日時点での基金総額は 6 億 266 万円です。

基金の使途についても検討を重ね、二つの方向から運用を決定しました。

基金の使途①「奨学サポート」

大学進学の大変な高校生が進学をあきらめずにすむように援助し、日本の将来を支える人材に育ててほしいという願いを込めて発足。岩手・宮城・福島すべての高校に応募を呼びかけ、10 名程度に大学生活の費用をほぼ全額支援します（一人あたり最大 1,130 万円）。平成 24 年度は第 1 期の募集を行ない、今後 4 年間でおよそ 40 名の支援をする予定です。

基金の使途②「タグボート支援」

被災地で子供の教育に尽力するボランティア団体や学生の活動を支援。平成 24 年度はのべ 18 団体の活動に対して 4,562 万円を支援しました。

平成 24 年度支援団体一覧

福島大学・人間発達文化学類／会津学生ボランティア連絡会／おはなしころりん／生井ストレス科学研究所／水戸昇教育相談所（大玉畑の学校）／NPO 法人東北復興支援きずなの輪／仙台グリーフケア研究会／東京文書救援隊／一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン／NPO 法人ココネット／NPO 法人日本クリニックラウン協会／南部桜下村塾／NPO ワタノハスマイル／一般社団法人 SweetTreat311／宮城県女川町上五区子供会育成会／社会福祉法人ゆめみの里（仮称）／国際コンサルティング協会／一般社団法人地球の楽好



【上】被災地でのパステル画ワークショップ（ココネット）

【右】「えほんバス」で保育園を巡回（地球の楽好）



子供たちを招いたクリスマス会（福島大学）



ガレキを使ったオブジェを制作（ワタノハスマイル）



学校外教育の機会を提供（チャンス・フォー・チルドレン）



今後の活躍を誓い合うアサザ基金(左)と上総掘りをつたえる会(右)の皆さん



第 31 回地球倫理フォーラム (後援：文部科学省)

平成 24 年 5 月 27 日、第 31 回地球倫理フォーラムが青森県八戸市で開催され、721 名が参加しました。

文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長・笹井弘之氏が、「これからの日本の教育」をテーマに講演。家庭教育の低下要因について説明し、文部科学省が推進する 4 つの家庭教育支援方策を示しました。続いて丸山理事長が「家族の絆をはぐくむ教育」と題し、講演しました。



第 15 回地球倫理推進賞 (後援：文部科学省・産経新聞社・全国民間ラジオ局 37 社)

地球倫理推進賞は、地球倫理を推進する団体や個人を顕彰する目的で、平成 10 年に創設されました。第 15 回目の公募に 34 件の応募が寄せられ、選考の結果、NPO 法人アサザ基金(国内活動部門)、NPO 法人上総掘りをつたえる会(国際活動部門)の受賞が決まりました。

アサザ基金は、霞ヶ浦を舞台に「アサザプロジェクト」を展開し、生態系の回復などに成果をあげています。上総掘りをつたえる会は、伝統的井戸掘り技法「上総掘り」を用いて、フィリピンなどで井戸建設に尽力しています。平成 24 年 3 月 28 日、倫理文化センターにて贈呈式が行われ、両団体に表彰状と副賞 100 万円、文部科学大臣賞が贈られました。

第 7 回しきなみ子供短歌コンクール (後援：文部科学省)

平成 24 年 2 月 26 日、第 7 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式がニッショーホール(東京・虎ノ門)で開催されました。

全国の小学生 6 万 5,377 名から応募があり、「しきなみ子供短歌賞」3 名および「特選」29 名には、丸山理事長より表彰状が授与されました。続いて「しきなみ子供短歌賞」を受賞した 3 名に、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・水戸部修治氏から、「文部科学大臣賞」が贈られました。



【しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞作品】

- | | |
|-------|---|
| 低学年の部 | 二十年後またこの海で会いたいなほくの手よりも小さなカメさん(岡部佑太／静岡・2 年生) |
| 中学年の部 | がれきの山見るのが辛く下を見た朝顔ひとつやさしくさいた(長谷見帆風／埼玉・4 年生) |
| 高学年の部 | 波の音こんなにやさしい夜の海人をのみこむ波に思えず(林由乃／埼玉・6 年生) |



社会教育功労者表彰

平成 23 年度「社会教育功労者表彰式」が 11 月 18 日、文部科学省講堂で開催され、浅尾和子生涯局参事が表彰されました。

浅尾参事は昭和 44 年に入会。自身の豊富な体験を踏まえ、これまで若い母親たちに向けて熱心に子育てのポイントを伝授してきたほか、さまざまな家庭問題の解決サポートにも多大に尽力してきたことが高く評価され、表彰されました。

国際倫理教育支援

日本との交流の懸け橋となる人材育成を目的に、「丸山奨学金制度」として、アジア諸国から日本に留学中の大学生、大学院生に奨学金を支給し、勉学を援助しています。平成 24 年度も内蒙古大学の大学生 79 名に「丸山奨学金」を支給(11 月 17 日贈呈式)。また、中国や韓国、フィリピン、カンボジアなど、アジア 7 カ国からの留学生 14 名に、総額 1,513 万円の奨学金を支給しました。

5 月には「第 1 回丸山奨学生交流会」を開催し、研究の進捗状況など意見交換を行ない、親睦を深めました。



「家庭倫理の会」活動の展開

「家庭をよくし、地域をよくし、日本をよくする」目的のもと、地域密着、地域貢献型の活動を組織的に展開しました。純粋倫理を積極的にアピールし、未普及地域への拠点づくりを着実に推進。実践・学習の場である「おはよう倫理塾」を磨き高め、愛和の家庭づくり、地域貢献のできる人材育成に努めました。



家庭向け月刊誌『新世』

地域における生涯学習活動

家庭倫理講演会 (後援：文部科学省)

「感動が心の扉を開く」をテーマに全国で開催しました。家庭教育の重要性を説き、感動に満ちた生活を送るための夫婦・親子のあり方や家庭における感謝の心の重要性を、純粋倫理の具体的な実践を交えて提言しました。

開催会場	参加延べ人数
195 力所	69,653 名 (未会員 26,093 名)

おはよう倫理塾

早朝5時から、さわやかな笑顔に囲まれて、老若男女が明朗・愛和・喜働の実践に励み、純粋倫理の学習を深めました。また、大垣市、熊本市、那覇市で「特別おはよう倫理塾」を開催し、参加者はそれぞれ1,000名を超えました。

開催会場	参加延べ人数
434 力所	2,137,703 名

こども倫理塾

小学生を対象に「まなび」「あそび」「しつけ」を三本柱として開催。「5Acts (ファイブアクト)」の実践を奨励し、あいさつや後始末など、純粋倫理を基本とした生活習慣の体得を図りました。

開催回数	参加延べ人数
1,062 回	14,457 名



地域に役立つ活動

子育てセミナー

家庭倫理の会が、乳幼児期や小・中学生の子供を持つ親を対象に実施しました。純粋倫理に基づいて、子育ての要点をわかりやすく解説。子供の年代ごとに対象者を編成したセミナーは、若い母親や父親に好評を博しました。

開催回数	参加延べ人数
987 回	11,947 名



全国一斉清掃

地域行事へ積極的に参加し、地域の活性化に貢献しました。平成23年9月に全国主要都市の公共施設(駅周辺、公園、国道、河川敷など)で大規模な清掃を実施。地域の美化・浄化に取り組みました。

開催会場	参加延べ人数
190 力所	6,657 名



青年活動

青年弁論大会

平成23年12月11日から平成24年3月18日にかけて、「未来を創る」をメインテーマに全国7カ所で「青年弁論大会」を開催しました。2,995名(うち青年725名)が参加し、盛況裡に終了しました。

「地球倫理」実践活動

平成24年4月28日～5月5日、中国内モンゴル恩格貝のクブチ沙漠で、沙漠緑化の植林活動を行ないました。日本から31名の青年が参加し、中国からも北京市、浙江省、内蒙古自治区など、7大学63名の大学生と有志20名が参加。スタッフを合わせ総勢122名が、ポプラの植林活動を行ないました。また、「地球環境と経済発展」をテーマに討論会も開催。活発な意見交換や親睦交流などを行ない、「地球倫理」の実践活動として、こころの教育の場として、両国青年の絆を一層深める機会となりました。

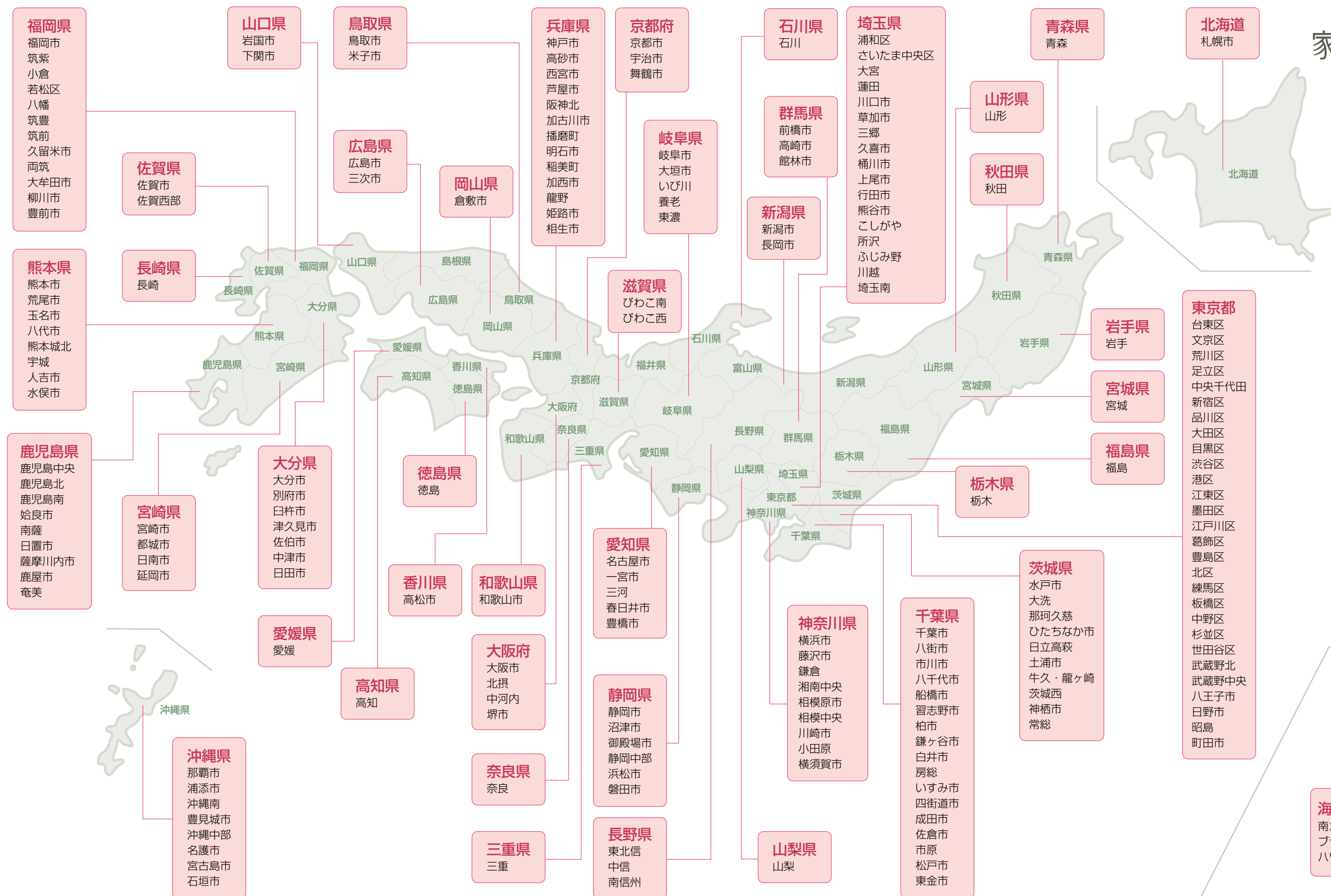


「家庭倫理の会」分布図

全国 202 カ所の家庭倫理の会で生涯学習活動を展開しています。
(平成 24 年8月 31 日現在)



家庭倫理の会



「倫理法人会」活動の展開

「日本創生」の実現、会員企業数 10 万社達成に向けて、全国 60,000 社の会員企業が精力的な実践・普及活動を推進。更なる未普及地域の開発、単位倫理法人会の活動内容の見直しと充実を図りました。また「倫理ライセンス 17000 倶楽部」の拡充を図り、倫理経営を目指す企業の繁栄と地域社会の発展に寄与することを目指しました。



隔月刊誌「倫理ネットワーク」



朝礼用冊子「職場の教養」

倫理経営講演会

平成 24 年 1 月から 6 月にかけて、「易不易」「朝に活路あり」をテーマに掲げ、全国主要都市にて開催しました。倫理経営の重要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	参加延べ人数
676 力所	83,204 名



経営者モーニングセミナー

毎週 1 回、早朝に全国 714 会場で開催。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の貴重な体験談などを交えて、企業を健全な繁栄へと導く「倫理経営」についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加社数	参加延べ人数
33,990 回	747,882 社	865,011 名



職場朝礼の推進

社員の能力向上と企業の健全な繁栄に向けて、活力あふれる職場朝礼を推進しています。その浸透のために「朝礼研修」に力を注ぎ、朝礼を実施する企業の増大を図りました。また、職場朝礼用のテキストである『職場の教養』（非売品）を毎月 165 万部発行し、会員企業に提供しました。

後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的として、純粋倫理の学習と実践を通し、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた若き経営者の養成に力を注ぎました。

新潟・長野・埼玉・東京・千葉・石川・沖縄の 1 都 6 県で実施し、年間 7～11 回開塾。総勢 89 名が参加しました。



経営者の集い

広く倫理経営を伝えることを目的に、各倫理法人会で定期的に開催しました。「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、初めて出席する経営者を対象に、会員企業による事業体験報告を通して、純粋倫理についての学びを深める勉強会を実施しました。

開催回数	参加延べ人数
1,731 回	29,460 名



法人レクチャー会

自らの倫理実践による事業体験を語り、倫理経営の醍醐味を伝える法人レクチャーを対象に、平成 23 年 10 月に研修会を実施（出席者 141 名）。「経営者の集い」、「経営者モーニングセミナー」における体験発表者としての講話力の向上に努めました。



倫理経営インストラクター会

純粋倫理の理解と倫理指導力の向上を図るため、平成 24 年 1 月に開催しました（出席者 217 名）。平成 24 年度は「倫理経営上級インストラクター」3 名、「倫理経営インストラクター」17 名が新たに認定されました。

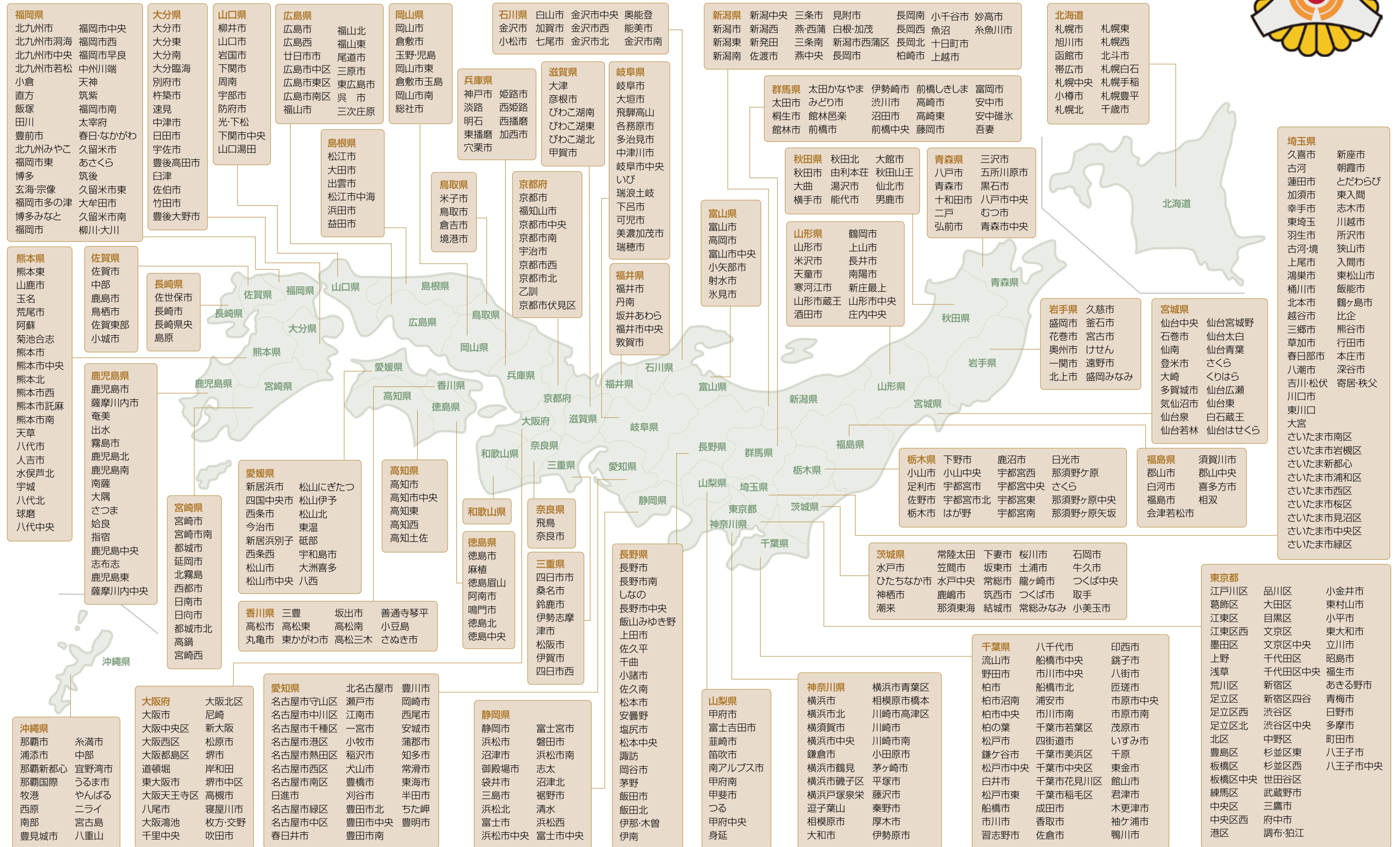
倫理ライセンス「倫理 17000」

地域社会に貢献する企業づくりと、倫理経営を顕著に推進している企業の証として、新たに 13 社の会員企業に倫理ライセンス「倫理 17000」認定証を授与しました。同ライセンス認定企業は計 166 社となりました。



「倫理法人会」分布図

全国 714 カ所の倫理法人会で倫理経営の推進活動を展開しています。
(平成 24 年8月 31 日現在)



文化活動の推進

「秋津書道会」は 299 支苑、「しきなみ短歌会」は 373 支苑、秋津・しきなみ合計会員数は 9,491 名となりました。「初めての書道教室」や「初めての短歌教室」などを開催して広く一般に参加を呼びかけるなど、文化活動による倫理普及の取り組みは、着実に広がりを見せ実績を上げています。

秋津書道会

同会の特色である《自分の思いを書く》作品づくりに取り組むべく、会員を対象とした「第5回秋津賞・秋津こども賞」を開催しました。応募者数は「秋津賞」510 名、「秋津こども賞」71 名でした。

また、各地の家庭倫理の会が地域ごとに書道展・文化展を開催。「第5回秋津賞・秋津こども賞」の入賞作品を巡回展示し、好評を得ました。このほか、広く参加者を募る「初めての書道教室」などを開催しました。

月刊誌『秋津書道』は、年間競書出品総数 3 万 222 名となりました。「秋津書道体験記」も好評を博しました。



月刊誌『秋津書道』

しきなみ短歌会

未会員を対象に、広く参加者を募る「初めての短歌教室」を積極的に開催することにより、入会者も着実に増加してきました。第 16 回「しきなみ賞・しきなみ新人賞」は応募総数 495 名。入選作品では、東日本大震災で被災された方や肉親を津波で失った方の苦難があるがままだに詠んだ、感動的な作品が目立っていました。

月刊誌『しきなみ』は、年間の出詠者総数が 6 万 2,190 名となり、全国の短歌結社中、出詠者数で 11 年連続トップとなりました。毎月掲載している「しきなみ体験記」も引き続き好評を博しました。



月刊誌『しきなみ』



国際交流の推進

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及・交流を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德の昂揚に寄与しました。「秋津書道会」「しきなみ短歌会」の活動を充実させ日本の伝統文化を伝えつつ、幹部研修や講師研修にも力を注ぎ、組織運営の強化と純粋倫理の普及拡大を図りました。

倫理研究所USA

（南カリフォルニア倫理の会）

平成 24 年 5 月 20 日、倫理文化講演会を開催し、140 名が参加しました。



「幹部研修」「りんりセミナー」「モーニングミクサー」を毎月実施し、会報『おはようロスアンゼルス』を毎月発行するなど、組織の充実と純粋倫理の理解・実践・普及力の向上に努めました。そのほか「倫理ビジネスネットワークセミナー」を通して日系企業の経営者や社員に倫理経営の必要性を訴えました。また、短歌会と書道会を定期的に開催しました。

ニューヨーク倫理友の会

ニューヨークを拠点に活躍する日本人、日系人、企業駐在員などを対象に『NEWS LETTER』を発行。交流会を通じて純粋倫理の情報を発信しました。そのほか、平成 23 年 11 月に「第 11 回年次総会」、平成 24 年 5 月に「春のランチオン」を開催しました。



ハワイ倫理の会

ホノルルを拠点にラジオ・新聞などのメディアを活用しながら日系社会への普及拡大を図り、倫理講演会を定期的に開催しました。毎週「土曜倫理の集い」を事務所で開催し、内容・組織運営両面の充実を図るとともに、「ハワイ留学里親制度」も継続。ハワイを訪問する日本の会員との交流も着実に増えています。

ブラジル倫理の会

組織的運営の強化と純粋倫理の普及拡大を図るべく、研究員の長期滞在を 4 回実施しました。セントロ支部と聖北支部では毎週土曜日に「朝の集い」を開催。アメリカナ支部では、ブラジル人を対象にポルトガル語での普及が活発に行なわれています。



松柏学園・大志万学院では生徒や父兄対象の倫理セミナーや書道教室を開催し、日系社会への倫理普及に努めました。会報『ブラジル倫理の会』を毎月発行して会員相互の関係を密にするとともに、会報を通じた「南カリフォルニア倫理の会」との交流も行なわれました。

そのほか「若手経営者の集い」や現地企業への社員セミナーなども行ない、法人への倫理普及にも力を入れました。



中華民国倫理研究学会との交流

講師研修・分会長研修などを行ない、幹部の育成と組織運営の支援にあたりました。また平成 23 年 11 月、「中華民国倫理研究学会創立 25 周年記念大会」が開催され、700 人が参加。日本からもツアーを組み 45 名が参加しました。

平成 24 年 4 月には「第 25 回倫理文化講演会」を台中市にて開催し、600 名が参加。7 月には丸山理事長による「丸山敏雄生誕 120 年記念・特別研修会」を実施し、160 名が参加しました。



中国社会科学院との交流

中国社会科学院応用倫理研究センターをはじめ、中国倫理学会との学術交流を推進しました。また、倫理研究所中国事務所を拠点に倫理普及の調査研究に努めつつ、中国語ホームページにより純粋倫理の浸透を促進しました。

研究の充実

純粋倫理および倫理文化に関する基礎的、専門的研究を推し進めて成果をあげるとともに、普及・教育・出版に資する知的資産の更なる蓄積、整備、構築、発信に努めました。特に平成 24 年度は、今日の社会情勢を多面的にリサーチして発信するとともに、専門研究に関する人的・内容的充実を図り、創始者生誕 120 年を記念した「公開研究発表会」を開催しました。



公開研究発表会の開催

平成 24 年 8 月 4 日、創始者生誕 120 年を記念して、「丸山敏雄とこれからの日本」をテーマに公開研究発表会を開催しました（東京／ニッショーホール）。第一部は埼玉大学名誉教授・長谷川三千子氏による特別講演「日本の本質にあるもの―『古事記』を手がかりにして」、第二部はパネルトーク「いま、なぜ、丸山敏雄か」（丸山敏秋、野中寛治、高橋徹、寛ボルテール、松本亜紀）。544 名が来場しました。[\(関連記事 p.2\)](#)

研究の方向と重点

純粋倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築を目指して、純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門研究を積極的に推進しました。

ア. 純粋倫理の研究

純粋倫理の基礎的研究を推進するとともに、専門的研究を進めました。

氏名	研究テーマ
丸本征雄	丸山敏雄の著作にみる「譬え・比喩・ユーモア」
戸田徹男	実証研究「ひきこもりの家族関係」
三好雅典	純粋倫理の淵源
伊勢田豊	経営理念のシステム化の研究
田中範孝	犠牲の倫理
野中寛治	丸山敏雄の日本文化・思想観
宇都進一郎	石田梅岩の研究
島田光男	丸山敏雄の折手本の研究―遺された折手本の体系化―
御所園正信	家の持続とその価値
三浦貴史	ひとのみち教団事件の考察

イ. 倫理文化に関する専門研究

「倫理文化学」を構築するための諸研究、ならびに日本文化の本質を明らかにする研究を行いました。また、外部研究者と連携し、同研究を推進しました。

氏名	研究テーマ
高橋 徹	秘教と現代的な知の統合
寛ボルテール	日本食文化からみる日本文化の神髄と特質
内田智士	道徳心の主観確率を用いたモデル化、罰としての仲間外れに関する研究
松本亜紀	「誕生」と「死」の場の変遷と日本人の死生観の変容について

ウ. 委託研究

氏名	研究テーマ
越智秀一	身体と倫理―湯浅泰雄の研究を手掛かりとして―
土屋 久	島の霊性―黒潮圏の巫俗とその周辺―
嚴 錫仁	江戸思想史における家族・家庭
海野 裕	倫理意識俯瞰調査に基づく研究



月刊誌『倫理』



年刊誌『倫理研究所紀要』

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。特に、日本家庭教育学会では、第 27 回大会の委員として企画、実施にあたりました。また道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、相互支援関係を深めつつ、必要に応じてその活動を支援しました。

大規模調査の実施

インターネット調査により、東日本大震災後の「日本人の倫理意識」の変化について調査、考察を行ないました。調査成果は所内研究発表会および『倫理研究所紀要』第 21 号で公表しました。

『倫理文化研究叢書』の刊行

「倫理文化学」構築の一環として『倫理文化研究叢書 4 丸山敏雄と日本』（丸山敏秋著）を刊行。また、第 5 弾『われ、日本をかく語り―ヨーロッパ講演・対話集』（竹本忠雄著）の編集作業を進めました。

研究論文テーマ

『倫理研究所紀要』第 21 号：掲載論文

●宮澤賢治の幻視力	丸山敏秋
●「犠牲」の倫理的意義を考える	田中範孝
●天皇制と倫理	野中寛治
●「ひとのみち」教団弾圧事件の考察	三浦貴史
●道徳心と利他性の数理解析Ⅱ	内田智士
●知覚の倫理	高橋 徹
●食と記憶の研究	寛ボルテール
●主体的な出産を達成するための要因	松本亜紀
●朱子思想の「性即理」をめぐる一考察	嚴 錫仁
●身体と倫理	越智秀一
●権田直助の靈魂論	土屋 久
●震災、放射能、日本人、そして倫理	海野 裕
●現在の困難を乗り越切る日本の強みと弱み	ベン・アミー・シロニー

『倫理』第 705 号～716 号：主要掲載論文

【巻頭論文「大震災後の日本を考える」】

●未曾有の危機がよみがえらせたもの	丸山敏秋
●天と人は関わらないのか	〃
●災いを福に転じる	〃

【巻頭論文「丸山敏雄生誕百二十年に寄せて」】

●隠忍自重	丸山敏秋
-------	------

教育資料の整備

家庭倫理講演会をはじめ、諸行事で発表された「実践報告」から、原稿 590 篇を収集。分類・整理を加え、検索システムに入力しました。また、当該年度に発表された論文のデータベース化を図るなど、さまざまな教育・研究資料として運用されるべく各種資料の整備・管理を進めました。

遺品・図書資料の整備

倫理資料館では、創始者の遺品蒐集・整備ならびに純粋倫理・倫理文化・日本文化・内外倫理思想研究などに資する図書資料の整備を進めました。また創始者生誕 120 年に向け、『丸山敏雄全集』に未収録の遺稿、関連補充資料の整備を精力的に行ないました。倫理文化センター内図書室では ISIL (ISO15511 図書館および関連組織のための国際標準識別子) を取得し、利用者へのサービス向上に努めました。

ホームページでの研究成果の発信

倫理研究所のホームページ上に、過去 6 年分の「大規模調査」の調査結果を掲載。更に、ウェブ上での独自の研究成果発信の可能性と方法を検討しました。

●夢に現れる恩師夫妻	丸山敏秋
●奇蹟から倫理へ	〃
●「お振替」から「身代り」へ	〃
●日本固有の「祓い」と「身代り」	〃
●昇華された「身代り」	〃
●人間は何から成るか	〃
●「たましい」の教育	〃

【純粋倫理の研究に関する論文】

●古の道と漢意―本居宣長『直毘霊』をめぐる―	野中寛治
●家族主義の制度慣習	御所園正信
●「ひとのみち教団」に関する研究の意義について	三浦貴史
●経営理念の浸透と徹底	伊勢田豊
●丸山敏雄とユーモア	丸本征雄
●潔癖症（強迫性障害）改善の考察	戸田徹男
●丸山敏雄の「折手本」の研究	島田光男
●「犠牲の倫理」の一考察	田中範孝

【倫理文化に関する論文】

●協調と利他の発展	内田智士
●秘教的な観点から見た小脳	高橋 徹
●食と記憶	寛ボルテール
●「誕生」と「死」の場の変遷と死生観の変容	松本亜紀

【内外倫理思想に関する論文】

●「島国性」と日本文化	土屋 久
●儒教的指導者としての武士の生き方	嚴 錫仁

倫理研究所の事業概要

倫理研究所は生涯学習を推進する民間の社会教育団体です。和やかな家庭、活力のある職場、明るい地域社会をつくるのが、美しく平和な社会を築く第一歩と考え、人間生活のすじみちを学び、日々の実践に努める人々の輪を広げるべく、さまざまな事業を展開しています。

倫理研究所は文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。社団法人の許可を受けて〈研究〉〈教育〉〈出版〉〈普及〉の諸活動を行なっているほか、文化芸術活動や環境美化活動にも力を入れています。会員は、倫理研究所の趣旨に賛同する全国各地の個人および法人です。

創立は昭和 20 年 9 月 3 日。敗戦後、世情が混乱し道義が退廃した国の姿を憂えた丸山敏雄が、道義の確立をもって日本を再建したいと論文『夫婦道』の筆を執ったことから倫理運動が始まりました。

永年にわたる研究から発見した生活法則を「純粹倫理」と名づけ、多くの共鳴者、協力者を得て、昭和 21 年に研究機関として「新世文化研究所」を設立。昭和 22 年には倫理の普及を推進する組織として「新世会」を設立。翌年には社団法人の許可を受け、昭和 26 年に「社団法人倫理研究所」と改称しました。

その後、倫理運動は個人会員組織を「家庭倫理の会」、法人会員組織を「倫理法人会」と称して活動しています。

組織概要

名 称	社団法人倫理研究所
英 文 名 称	RINRI Institute of Ethics
役 員	理 事 長 丸山敏秋 常任理事 前川朋廣／徳江秀雄／内田文朗
	理 事 11 名 監 事 2 名
職 員	162 名
所 在 地	倫理文化センター 〒101－8385 東京都千代田区三崎町3－1－10 TEL 03－3264－2251／FAX 03－3239－7431
所 管 官 庁	文部科学省生涯学習政策局
創 立	昭和 20 年 9 月 3 日 昭和 23 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
目 的	純粹倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資することを目的としています。
事 業	1. 社会教育事業 2. 研究事業 3. 出版・広報事業 4. 文化事業 5. 地球倫理推進事業
ホームページ	http://www.rinri-jpn.or.jp



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

【会員数（平成 24 年 8 月末時点）】

家庭倫理の会 会員数：198,598 名 / 倫理法人会 会員数：64,858 社
秋津書道会 会員数：3,920 名 / しきなみ短歌会 会員数：5,571 名

【会費（月額）】

○個人会員 500 円 / 賛助会員 1,000 円 / 協賛会員 3,000 円 / 特別賛助会員 10,000 円
○法人会員 10,000 円（一口）
○秋津会員 正会員 1,500 円 / ジュニア会員（幼児～中学生）800 円
○しきなみ会員 正会員 1,000 円 / ジュニア会員（幼児～中学生）500 円

文部科学省所管証明



倫理研究所は、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体です。

純粹倫理とは

純粹倫理は日本の精神文化や歴史、宗教などの研究を土台にして樹立された《人間生活の法則＝すじみち》です。実生活とひと時も離れることのない生活のルールといえます。人間を幸福に導き、平和で豊かな社会を築く基本の《くらしみち》であり、生きた生活法則です。それは日常生活のあらゆる場面において、だれもが実験実証できます。《明朗＝ほがらか》、《愛和＝なかよく》、《喜働＝よろこんではたらく》、これがその実践であり、《純情＝すなおな心》になることが純粹倫理の核心です。

朝、目が覚めたらサッと起きること。誰にでも明るく朗らかにあいさつをすること。返事、後始末をきちんとすること。いずれも日常生活の身近な、あたりまえのことです。このあたりまえのことを継続することで、生活を改善し、家庭や職場をはじめとする人間関係を豊かなものにしようというのが、倫理運動の眼目です。平凡な実践の中にある非凡な真理を知り、日々の実践に努めることがどんなに素晴らしい結果をもたらすか、多くの体験が実証しています。そんな人間向上の道、生活向上の規範が純粹倫理なのです。

主な事業内容

社会教育事業

【家庭倫理の会（個人対象）】

なごやかな家庭づくりに向けて「家庭倫理講演会」「地球倫理フォーラム」「子育てセミナー」などを、子供の健全な育成を目指して「こども倫理塾」を全国的に開催しています。また、生涯学習活動の一環として毎朝5時より開いている「おはよう倫理塾」では、全国 434 カ所で老若男女が純粋倫理の学習と実践にいきなっています。

【倫理法人会（経営者対象）】

職場の明朗化と企業の活性化のために「倫理経営講演会」「経営者の集い」「後継者倫理塾」などを全国的に開催しています。また、経営者の学習活動として、毎週1回、朝6時から全国 714 会場で「経営者モーニングセミナー」を開催しています。各職場では、毎朝『職場の教養』を活用した朝礼を実施。喜びあふれる働きの輪を広げています。

【富士教育センター】

静岡県御殿場市にある教育施設「富士教育センター」では、純粋倫理の理論的・実践的学習のために、「生活倫理セミナー」「企業倫理セミナー」「中学生元気塾」「高校生希望塾」「富士山こども倫理塾」などの各種セミナーを行っています。

研究事業

「研究センター」では純粋倫理および倫理文化に関する基礎的、専門的研究を推し進めて成果をあげるとともに、普及・教育・出版に資する知的資産の更なる蓄積、整備、構築、発信に努めています。純粋倫理の体系化を図るための専門的研究を推進しているほか、「倫理文化学」を構築するための諸研究、並びに日本文化の本質を明らかにする研究、創立者丸山敏雄の思想研究にも取り組んでいます。

出版・広報事業

研究事業の成果を月刊誌・単行本などにまとめて発刊しています。

- (1) 月刊誌紙 『新世』（家庭向け総合誌）／『倫理』（研究論文誌）／『倫研新報』（月刊情報紙）
『しきなみ』（短歌誌）／『秋津書道』（書道誌）／『職場の教養』（朝礼用冊子）
『倫理ネットワーク』（経営者対象・隔月誌）
- (2) 年 間 誌 『倫理研究所紀要』／『年次報告』
- (3) 書 籍 約 160 種類
- (4) 広 報 ラジオ「録音風物誌」番組提供、月刊『生涯学習』（文部科学省編集協力）に「今月の指針」掲載

文化事業

「生活の浄化と個性の発揚」を目指して創設した「秋津書道会」（昭和 13 年発足）と、「しきなみ短歌会」（昭和 21 年発足）。全国に「秋津書道会」は 299、「しきなみ短歌会」は 373 の支苑が設けられ、国民芸術を目指して、心境を練磨し研鑽を積んでいます。

地球倫理推進事業

- (1) 平成 11 年より中国内蒙古自治区クブチ沙漠において、「地球倫理の森」の創成事業を実施しています。
平成 24 年8月までの植林数は、31 万 7,395 本です。
- (2) 地球倫理を推進する一環として、平成 10 年に「地球倫理推進賞」を創設。毎年、地球倫理の推進に実践面で貢献している団体（または個人）を顕彰しています。
- (3) 「丸山奨学金」をアジア諸国の留学生ならびに中国内蒙古大学に支給し、勉学を支援しています。また、日中青年沙漠緑化事業に参加する中国の学生を支援するため、平成 21 年度より「緑の奨学金」を支給しています。

倫理研究所の主な施設

倫理文化センター

東京都千代田区三崎町3-1-10

倫理運動推進の本部機能を有する倫理文化センター。社会教育施設としての機能を充実させ、本部職員が業務を行なうほか、ホールや会議室を利用して、国際会議や研修会も行なわれます。



富士教育センター

静岡県御殿場市印野1383-85

静岡県御殿場市にある教育施設です。純粋倫理の理論的・実践的学習のために、「生活倫理セミナー」「企業倫理セミナー」「中学生元気塾」「高校生希望塾」「富士山こども倫理塾」などの各種セミナーを行っています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。



天和会館

福岡県豊前市大字天和392

倫理運動の創始者丸山敏雄の生家（平成 19 年復元）に隣接した会館です。伝統建築の粋を集めた家屋は、主に倫理研究所の研修施設として活用されています。豊前市の新たな観光名所としても注目を集めています。



倫理資料館

東京都武蔵野市境5-6-25

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの収集・保存整理を行っています。『丸山敏雄全集』に基づき、遺品管理データベースの構築を進めるとともに、遺墨の修復を実施し、更なる内容の充実を目指しています。



沿 革

- 1945 (昭和 20) 年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿、倫理運動を創始。
- 1946 (昭和 21) 年 「新世文化研究所」設立（初代所長、丸山敏雄）。
- 1947 (昭和 22) 年 「新世会」設立。
- 1948 (昭和 23) 年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949 (昭和 24) 年 「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
- 1951 (昭和 26) 年 「新世会」を「社団法人倫理研究所」と改称。
丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966 (昭和 41) 年 富士高原研修所竣工。
- 1967 (昭和 42) 年 中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973 (昭和 48) 年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980 (昭和 55) 年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
- 1985 (昭和 60) 年 創立 40 周年記念大会にて丸山竹秋理事長が「地球倫理の推進」を提唱。
- 1986 (昭和 61) 年 中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
- 1987 (昭和 62) 年 第1回日中実践倫理学討論会を北京にて開催。
- 1989 (平成 元) 年 丸山竹秋理事長、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。第1回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」に参加（以後、毎年参加）。
- 1990 (平成 2) 年 倫理法人会 10,000 社達成記念大会開催。
- 1992 (平成 4) 年 丸山敏雄生誕 100 年記念大会開催。
- 1995 (平成 7) 年 創立 50 周年記念大会を東京と沖縄で同時開催。
丸山竹秋理事長が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
- 1996 (平成 8) 年 丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998 (平成 10) 年 第1回地球倫理推進賞贈呈式開催（以後、毎年）。
倫理資料館竣工。
- 1999 (平成 11) 年 倫理法人会 20,000 社達成記念大会開催。
創立 55 周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成スタート（以降、毎年派遣）。丸山竹秋逝去。
- 2000 (平成 12) 年 ブラジルにサンパウロ支部設立。
- 2001 (平成 13) 年 新富士高原研修所グランドオープン。
- 2002 (平成 14) 年 創始者没後 50 年記念大会を全国 7 カ所で開催。
- 2003 (平成 15) 年 第1回こども倫理塾大会開催。
- 2004 (平成 16) 年 倫理法人会 40,000 社達成記念大会開催。
- 2005 (平成 17) 年 「家庭倫理の会」発足。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。創立 60 周年記念式典、青年フォーラム 21 全国大会開催。ハワイ支部設立。
- 2006 (平成 18) 年 創始者生家（復元）竣工。丸山敏雄「書と心」展開催。第1回しきなみ子ども短歌コンクール表彰式を開催（以後、毎年）。
- 2007 (平成 19) 年 倫理法人会 50,000 社達成記念大会開催。
- 2008 (平成 20) 年 第1回日中青年沙漠緑化交流開催（以後、毎年）。
- 2009 (平成 21) 年 「地球倫理の森」創成 10 周年記念大会開催。
丸山竹秋会長没後 10 年記念大会開催。
- 2010 (平成 22) 年 創立 65 周年記念式典開催。
- 2011 (平成 23) 年 富士教育センターオープン 45 周年およびグランドデザイン完成。
- 2012 (平成 24) 年 丸山敏雄生誕 120 年記念行事並びに式典を開催。
創立者展示室オープン。



社団法人 倫理研究所

〒101-8385 東京都千代田区三崎町3-1-10 TEL 03-3264-2251/FAX 03-3264-7881

ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

■発行所／社団法人 倫理研究所 ■編集／倫理研究所 広報部 ■発行日／2012.11.15